

翻訳者のことば

組織の経営理念としてのビジョン、バリュー、ミッションを適切なプロセスを踏んで設定し、経営の現場において実践している組織はかなり限られているのではないのでしょうか。その原因の一つに、経営理念の設定と実践を行うための適切な知識と方法論がないことが挙げられます。この図書は、この要望に応えられるものです。

現在、我々を取り巻く環境を眺めると、中東における民主化、世界的な経済問題、地球規模の環境問題など先が見えない変化の渦中にあると言えます。まさに、世界が変わりはじめています。翻って日本をみれば、未曾有の災害に見舞われ、過去 20 年にわたる経済的な停滞、さらに新興国の台頭とアジアの勃興、グローバル化の進展など、同じく先の見通しが立たない状況に置かれています。

このような変革の時代に組織が生き抜くには、組織、グループ、個人は先ず基本理念に立ち返ることが必要です。すなわち、改めて自らの存在意義を問い直し、将来を見据えた展望を確立し、新たな展開を図ることが求められているものと思います。

本書には、「ビジョンを描くプロセス」にて組織がビジョンを持つことの価値を示し、その後「バリューを明確にする」「現状を映し出す」「ミッションを明確にする」「ビジョンを描く」「ビジョンを実現する」という 5 つのステップにてビジョンの設定と実現に関する具体的な作業が記述されています。

本書の最大の特徴は、組織のビジョンが個人のバリューやミッションと結びついたアプローチをとるところにあります。組織で働く個人のバリューとミッションを明確にし、個々人が組織における自身の立ち位置を深く考え、協働して組織の経営理念を設定し、その実践へむけた積極的な貢献が得られます。

本書はワークブック形式になっており、本書のステップに沿って書き込んでいくことによって、経営理念の設定を容易に行うことができます。本書に散りばめられたビジョン、バリュー、ミッションに関する記述は、極めて示唆に富んだものであり、戦略的経営にも大いに参考になるものです。

本書が、組織の変革に際して必ず取り組むべき経営理念の設定に関する定番の図書になることを期待しています。

清水計雄